

父の背中

南筑後支部 南筑後県土整備事務所 古賀信太郎*

はじめに私の自己紹介をさせてください。私は平成 27 年に福岡県に採用され、高卒 3 年目の 21 歳です。現在は南筑後県土整備事務所の道路課維持係員として、大牟田市とみやま市高田町の道路の維持修繕業務を行っております。まだまだ分からないことが多く、先輩方へご迷惑をおかけしながら日々の仕事に取り組んでいるところです。

と、私の自己紹介はこれほどにしまして、今回テーマにしている父の話をします。私は仕事を始めてまだ 3 年にも満たないですが、父はもう 40 年以上仕事を続けております。父も高校を卒業し働き始めましたが、30 歳を過ぎたころ結婚し婿養子として今の我が家にやってきました。そして私の祖父が 1 人でやっていた大工の後継ぎとして、今までの仕事とは全く違う道を歩み始めました。そして気が付けば 30 年以上大工をしており、60 歳を超えた今でも毎日仕事をやっております。自分も働き始めるまではそれほどすごいことなどとは思っていませんでしたが、30 歳を超えて新しいことを始めるのはとても大変なことだと思いますし、その決断ができることは、すごくカッコイイと思います。私は社会人になって働くことの大変さを知ると同時に父の偉大さを知りました。家族自慢というわけではありあませんが、今回父のことをテーマに選んだのはこれが理由です。

ここまでは父の仕事の面の話でしたが、ここからは視点を変えて家族の中の父の話をします。現在の我が家の家族構成ですが私を含め、祖父・祖母・父・母・姉・兄・義理姉・甥・姪という賑やかな 10 人家族です。賑やかな理由はもちろん、4 歳の甥と 2 歳の姪の存在です。やんちゃ盛りで家の中を駆け回るほど元気な兄妹ですが、それゆえに一緒に遊ぶのは大変で体力を消耗します。たまに兄夫婦から休日に子どもたちの世話を頼まれることもあるのですが、言うことを聞いてくれず仕舞いには泣き出す始末で未婚の私に子育ての大変さを教えてくれます。そんな甥っ子たちとじゃれあっていると、自分にもこんな頃があったのだろうかと思う時があります。それと同時に私と姉と兄を今まで育ててくれた両親はどれだけきつい思いをしてきたのかと考えてしまいます。ただ、両親が子育てをしてきた年月は私が生きてきた年月よりも長いので、その苦勞を知ることには今できません。将来的に私が父親になり、子どもが現在の私の年齢くらいになったときにようやく答えを知ることが出来ると思うので、早く結婚相手を見つけようと思います。家庭での父の話のつもりが両親の話になってしまったので、ここからは父が中心の話をしようと思います。

父は学生時代部活で体操をやっておりました。しかし社会人になってから知人に誘われ全く未経験の野球をすることになります。それも選手ではなく、審判としてです。本

業は大工で休日は審判をしている父の影響から兄が野球を始め、つられる形で私も野球を始めました。兄も私も小・中・高と野球部に所属し、社会人となった今でも野球を続けています。そんなある日、地元で行政区対抗野球大会が開催されることになりました。もちろん同じ家に住む私と兄は同じチームとして出場しましたが、その試合の審判は私の父でした。しかも私のチームは兄がピッチャーで私がキャッチャーという守備のため兄が投げ、弟が捕り、父が判定するという状況になりました。よくよく考えるとこれは結構すごいことじゃないかと今更ながらに思います。まだまだ元気な父ですが実は、審判の前かがみの姿勢の影響で8年ほど前にヘルニアで入院したことがあります。それでもリハビリを行い、今でもグラウンドに立ち続けています。どうやら父も野球が大好きなようです。あとどれくらい審判を続けるのかわかりませんが、また兄と3人で同じグラウンドで野球ができればとてもうれしく思います。

最後に、私は父を尊敬しています。が、それはごく最近そう思うようになってきたということです。私が仕事を始め、甥っ子たちの面倒を見るようになり、父と一緒に野球をしたことがきっかけです。それは父の背中に少しずつ近づいてきたからではないかと思えます。今まで当たり前のように育てられてきたことは、数えきれないほどの親の苦勞があったということに気が付くことが出来ました。これからは親孝行で返していきたいなと思えます。そしていずれは私も父になり、我が子と一緒にグラウンドに立ち、私の父と3人で一緒に野球をすることが夢なのでそれまで父には長生きをしてもらおうと思えます。

※南筑後県土整備事務所 道路課維持係